

第231回 「元気に百歳」クラブ・俳句サロン「道草」の4月の句会記録

春の高校野球は、健大高崎高の初優勝の裡に終了し、報徳学園高校は、今年も準優勝校に留まりました。優勝というのは難しいものです。今春の甲子園野球の目玉としてPRされていたのは、「球場創設100年目」ということと、高校野球が「低反発の飛ばないバットを採用」したことでした。事実、本大会中に飛び出した本塁打は3本に終わりましたし、以後の甲子園出場校の監督さんの作戦は、走塁術を重視した機動力野球に変わってくるでしょう。

さて『「元気に百歳」クラブ』4月「道草」の対面句会は、4月12日（金）、いつものように「新橋ばるーん」の202号室にて開催され、下述の10名のメンバーが集まりました。

○ 投句参加をして下さった方々のお名前（18名）

芦川創風さん、板倉歌多音さん、井上蒼樹さん、太田一光さん、奥田和感さん、金田月草さん、君塚明峰さん、木村栄女さん、坂上まさあきさん、高瀬荻女さん、辻 柴楽さん、手嶋錦流さん、中島憧岳さん、原 晶如さん、船戸清助さん、本間傘吉さん、森田多佳さん、芦尾白然。

○ 対面句会に参加された方々のお名前（10名）

創風さん、一光さん、和感さん、月草さん、明峰さん、荻女さん、晶如さん、傘吉さん、多佳さん、白然。

投句一覧表（今月も18名全員の句が集まりました）から、その選句結果をまとめるまでの作業は、今月も本間傘吉さんのお手を煩わせました。そして今月のイラスト画の挿入は、元気潑潑たる筍のイラストを準備して下さっていました。傘吉さん、いつも有難うございます。

投票の多かった句は、天賞4票、優秀推薦票6票を獲得した明峰さんの句「駅のどか山より電車現はるる」を頂点とし、次は歌多音さんの句「病得し娘の病窓に桜咲く」が、天賞2票、優秀推薦票5票獲の句、その次は「花吹雪雨後の墓石を飾りをり」の和感さんの句が、天賞1票、優秀推薦票6票を獲得しました。天賞票は獲得できませんでしたが、栄女さんの句「花篝り元湯の宿の長廊下」が、6票の優秀推薦票を集めました。

◎『駅のどか山より電車現はるる』	明峰	天4☆6
◎『病得し娘の病窓に桜咲く』	歌多音	天2☆5
◎『菜の花が笑ひ囁きスイングす』	柴楽	天2㊦2
◎『花吹雪雨後の墓石を飾りをり』	和感	天1☆6
◎『花宴お国訛りで酌み交はす』	傘吉	天1㊦4
◎『踏青や一步進みて旅心』	晶如	天1㊦3
◎『鬢付けが香る浪速に春が来た』	創風	天1㊦2
◎『グラウンド歓喜広がる春校歌』	歌多音	天1㊦2
◎『ひたひたと充つるものあり春の雨』	明峰	天1㊦2
◎『大木になりし櫻の幹の色』	多佳	天1㊦2
◎『春風や豆腐屋の笛聞こえ来る』	多佳	天1㊦1
◎『満開にマイウエイ唄う心地よき』	蒼樹	天1㊦1
◎『花篝り元湯の宿の長廊下』	栄女	☆6

季は4月、句会では晩春を詠みます。頭の中をぐるぐると往来するのは、過去のすべての体験の中から抽出した、句になるような出来事を並べることです。そして「どんな季語を、句中に詠み込むか」に対する心配りから、作業は始まります。樹々の若葉、濡れているような若緑、燃えるような勢いを17音に写生します。

夏への衣替えの季節が待っている時期でもあります。この夏への暮らし向き、過去の思

い出。選んだ季語を活かし、詠み込む物語に感動があるかどうか、晩春のもの憂さが表現できるような具体的な体感はありましたでしょうか。

例えば明峰さんの「駅の長閑さを詠んだ句」は、中七で「山より電車」が飛び出した「愉快さ」が、読者の共感を得ました。次に和感さんの散った桜の花びらの句は、雨後のお墓を桜の花びらが飾っていたことが、読者の感動を獲得しました。次に歌多音さんの句、お嬢さんの病窓を飾る桜花の励ましに、読者も応援の一票を投じました。

「上手いなあ」と感嘆するのは、栄女さんの句「花篝り元湯の宿の長廊下」の言葉の並べ方です。元湯の宿の客室が、湯浴みする風呂までは、少し遠く感じても、長い廊下を歩くその道々を案内するかのように、かがり火が焚かれているとは……。照らし出された夜桜の素晴らしさ、詠み手の得た感動が、読者に伝わります。まさに「景が見えてくる」という情景だと思われます。豊かな春の一夜に大満足ではないでしょうか。

今回の投句の中に、俳人黒田杏子の忌を詠まれた晶如さんの句「雲一片花の杖持つ杏子の忌」があります。つい2か月ほど前の2月25日に逝去された方です。黒田さんのご活躍は、異彩を放ち注目されました。黒田杏子さんは、晶如さんの現役時代、同じ会社で机を並べられていた方だと伺いました。全国の桜の名所を訪ねて句にしようとされたこと、瀬戸内寂聴さん、夏井いつきさんらも、何かとご一緒に居られたようですが、平素から言葉にされていた「一言」に「季語の現場に立つ」があります。記憶に残る黒田さんの句を写します。

お墓に残る一句　花巡るいつぼんの杖ある限り
花巡る一生のわれをなつかしみ

今月は体調が優れません。大変恐縮ですが、これにて擱筆致します。お許し下さい。
五月は元気に出直します。

白然記